

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：30110

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K24237

研究課題名（和文）NICUにおける看護職のための母乳育児支援ラダー試案の作成

研究課題名（英文）Development of a draft breastfeeding support ladder for nursing professionals in the NICU

研究代表者

嶋田 あゆみ（SHIMADA, Ayumi）

北海道医療大学・看護福祉学部・助教

研究者番号：60813087

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：NICUの母乳育児支援に特化した能力を明らかにし、クリニカルラダー開発の基礎資料とすることを目的に面接調査を行い、26サブカテゴリと8カテゴリを抽出した。自己の成長を促す能力として、母乳育児支援の基礎的知識を身につける、母乳育児支援に向けて自己研鑽に励む、母乳育児支援の経験を重ねて知を獲得する、母子への直接支援をする上での能力として、母と子の関係づくりを支援する、母と子に合った授乳を行えるよう支援する、母親が母乳育児の醍醐味を感じられるよう支援する、母親が母乳分泌を維持していけるよう支援する、チームで働く上での能力として、母乳育児支援に関わる職種で協働し切れ目のない支援を行うが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

NICUにおける母乳育児は重要であり、そこで働く看護職には適切に母乳育児を支援する能力が求められている。しかし現時点では、母乳育児支援の適切性の評価指標や、看護者の実践能力を評価するツールは確立されていない。

本研究で明らかになった能力は、NICUの看護職に必要な母乳育児支援の能力として、母乳育児支援ラダーを開発するための基礎資料となりうる。今後は、これらの能力をもとに、NICUにおける母乳育児支援ラダーを開発することが課題である。

研究成果の概要（英文）：With the aim of identifying competencies specific to breastfeeding support in the NICU and to provide basic data for clinical ladder development, we conducted interviews and extracted 26 subcategories and 8 categories.

The abilities that promote personal growth are: acquiring basic knowledge of breastfeeding support, striving for self-improvement toward breastfeeding support, acquiring knowledge through repeated experience in breastfeeding support, and abilities in providing direct support to mothers and children are: helping to build a relationship between mother and child, helping mothers to feed their babies in a way that suits them, and helping mothers to supporting mothers to feel the real pleasure of breastfeeding, supporting mothers to maintain breast milk production, and providing seamless support by collaborating with other professionals involved in breastfeeding support as abilities for working in a team.

研究分野：看護学

キーワード：NICU（新生児集中治療室） 母乳育児支援 看護職 クリニカルラダー 実践能力

1. 研究開始当初の背景

母乳は栄養学的、免疫学的、心理・社会的、発達の、経済的、環境的な側面で優れ、母乳で育てることによる様々な利点が明らかにされている。NICU に入院する免疫機能や消化管機能が脆弱な早産児および疾患のある児の健康にとって更に母乳は重要となり、NICU で働く看護職が母乳育児を支援する意義は大きい。

2010年に日本新生児看護学会、日本助産学会からNICUに入院した新生児のための母乳育児支援ガイドライン(以下、ガイドラインとする)が出された。ガイドラインでは、NICUに入院した新生児とその母親に対して、搾乳や早期からの直接授乳の開始、NICU退院後も長期に母乳育児を継続できるような支援について、看護者に必要な考え方や方法が提示され、NICUにおける母乳育児支援内容の標準化を目指している。特に、直接授乳を成功に導くためには、看護者による出産直後からの支援が不可欠であり、そこには特別な技術が必要とされている。

ガイドラインをふまえた支援によってNICUの母乳育児支援が向上しているか評価する必要があるが、現時点では母乳育児支援の適切性の評価指標や、看護者の実践能力を評価するツールは確立されていない。

そこで、NICUの看護職に必要な母乳育児支援の能力を明らかにすることにより、今後のNICUにおける母乳育児支援に寄与できると考えた。

2. 研究の目的

(1) 研究目的

本研究の目的は、NICUの看護職の母乳育児支援において必要な能力を明らかにすることである。この能力を明らかにすることで、NICUの看護職の母乳育児支援ラダーを開発するための基礎資料になる。

(2) 用語の定義

母乳育児支援：NICUに入院した子どもが母乳を飲むための母子への支援

能力：根拠に基づいて判断し、対象者のニーズに応じたケアを実践する力

3. 研究の方法

(1) 研究参加者

A都道府県内のNICUのある看護部に、NICUの勤務経験が7年以上で、スタッフ教育に携わる看護職の選定を依頼し、承諾の得られた4施設の看護職7名を参加者とした。

(2) データ収集方法

研究参加者に対して改めて口頭で説明を行い、2020年9月～2020年11月にインタビューガイドを用いた半構造的面接を行った。COVID-19感染拡大下でのデータ収集のため、対面もしくはオンラインを活用した遠隔での面接調査とし、いずれもプライバシーを確保できる場所で行った。

面接内容は、NICUで働く看護職に必要な母乳育児支援に関する能力とし、NICUの母乳育児支援に必要なと思うこと、必要と考える理由、必要と考える場面、大切にしている方針のために実践していること、どのようなことができなければ母乳育児支援ができていると思うか等を尋ねた。面接内容は参加者の許可を得た上で録音し、メモを取った。

(3) 分析方法

事例ごとに逐語録を作成し、母乳育児支援に必要な看護職の能力を語っている部分を抽出し、意味内容の類似するものを集めてコードとした。さらに意味内容を検討して抽象度を上げ、サブカテゴリ、カテゴリ化した。データ分析は、質的研究の経験をもつ研究者にスーパーバイズを受けながら進め、真実性と妥当性の確保に努めた。

(4) 倫理的配慮

看護責任者と研究参加者に対して、研究目的と意義、方法、協力内容、協力の任意性、協力撤回の自由性と方法、結果の公表、個人情報保護と管理の徹底等について書面にて説明した。さらに研究参加者には、同様の内容を口頭で説明し、同意書に署名を得た。本研究は、北海道医療大学看護福祉学研究所倫理委員会の承認を得た上で行った(承認番号：19N024024、20N018017)。

4. 研究成果

(1) 研究参加者の背景

研究参加者は全員女性で、NICUを有する異なる4施設に勤務する看護職7名であった。平均看護職経験年数は15.5年、平均NICU経験年数は12.2年、面接方法は対面3件、遠隔4件であった。面接所要時間は平均57分(最短38分、最長72分)であった。

(2) NICUの看護職に必要な母乳育児支援の能力

分析の結果、26のサブカテゴリと、8のカテゴリが抽出された。以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを《》、コードを で示した。カテゴリの内容をもとに、自己の成長を促す能力、母子への直接支援をする上での能力、チームで働く上での能力の3つに分類した。

自己の成長を促す能力

【母乳育児支援の基礎的知識を身につける】: このカテゴリは、NICUにおいて母乳育児支援を行う上での核となる基礎的知識を蓄えた上で支援することである。

《NICUに入院する子どもの特徴を理解する》: このサブカテゴリは、NICUに入院する児の体格が小柄であることを理解する、NICUに入院する児の体力が未熟であることを理解する、NICUに入院する児の哺乳力が未熟であることを理解する、NICUに入院する児の病態を理解するの4つのコードで構成された。

《NICUに入院する子どもに特化した母乳育児を理解する》: このサブカテゴリは、母乳育児の利点を理解する、直接授乳の意義にはスキンシップもあることを理解するの2つのコードで構成された。

《乳汁分泌のメカニズムをふまえた搾乳管理を理解する》: このサブカテゴリは、乳汁分泌のメカニズムを理解する、乳汁分泌の状況に応じた搾乳の必要回数を理解するの2つのコードで構成された。

【母乳育児支援に向けて自己研鑽に励む】: このカテゴリは、母乳育児支援を行う上での知識やスキルを向上させるよう自ら努力し続けることである。

《母乳育児支援に関する研修会を活用する》: このサブカテゴリは、母乳育児に関する研修会に参加し学習する、母乳育児に関する研修会での学びを共有するの2つのコードで構成された。

《母乳育児支援について主体的に学ぶ》: このサブカテゴリは、NICUに入院した新生児のための母乳育児支援ガイドラインに基づく支援を理解する、母乳育児支援のための知識を蓄えるの2つのコードで構成された。

【母乳育児支援の経験を重ねて知を獲得する】: このカテゴリは、他者の母乳育児支援を見る経験や、フォローを得ながら支援を重ねる経験から知を得ることである。

《他のスタッフの母乳育児支援を見て学ぶ》: このサブカテゴリは、先輩や同僚など他のスタッフの母子への関わりを見て学ぶ、他のスタッフの様子を参考に母子への自然な声かけを身につけるの2つのコードで構成された。

《母乳育児支援の経験を重ねる》: このサブカテゴリは、経験の乏しいスタッフと経験の豊かなスタッフが共に支援を行う、母子に関わる機会を重ねるの2つのコードで構成された。

《母乳育児支援を振り返り経験を意味づける》: このサブカテゴリは、母乳育児支援を振り返り課題を明確にする、母乳育児支援の思考過程を他者へ伝えるの2つのコードで構成された。

《経験の乏しいスタッフをフォローする》: このサブカテゴリは、経験の乏しいスタッフの支援を補う、経験の乏しいスタッフの支援を見守るの2つのコードで構成された。

母子への直接支援をする上での能力

【母と子の関係づくりを支援する】: このカテゴリは、NICU入院により母子分離となった母子の母乳育児支援に向けて、母と子の関係づくりを支援することである。

《母親がNICUで子どもと共に安らぐ時間を過ごせるよう環境に配慮する》: このサブカテゴリは、母子の安全とプライバシーが守られる環境を整える、面会に来ている母親が子どもと一緒に過ごせるよう環境に配慮するの2つのコードで構成された。

《直接授乳に向けて子どもを見守り母子のスキンシップを促す》: このサブカテゴリは、子どもの体温・呼吸・活気を観察しコット移床ができそうか見極める、子どもの呼吸・哺乳状況を観察し直接授乳ができそうか見極める、子どもの発する哺乳のサインを読み取る、母子のスキンシップの時間を大切にすることの4つのコードで構成された。

【母と子に合った授乳を行えるよう支援する】: このカテゴリは、情報収集し分析した結果を母親が理解できるように伝え、母親が子どもに応じた授乳を行えるように支援することである。

《母乳育児支援に必要な母子の情報を十分に集める》: このサブカテゴリは、夜間の覚醒状況や瓶授乳の状況など子どもの個々の状態を十分に把握する、母親の精神面や指導内容を十分に把握するの2つのコードで構成された。

《子どもが退院するまでの発達を見通す》: このサブカテゴリは、子どもが退院するまでの成長発達のプロセスをイメージする、時間授乳から自律授乳になる変化をイメージする、直接授乳で必要量を飲み取れるようになるまでのプロセスなど哺乳に関する発達過程をイメージするの3つのコードで構成された。

《母親に母乳育児をする上での子どもの理解を促す》: このサブカテゴリは、早産児の哺乳の未熟性を母親に説明する、母親が子どもの哺乳に関する発達の見通しをもてるように関わる、

直接授乳を始める目安を母親に説明する、直接授乳の初期段階は哺乳量が満たない可能性が高いことを予め母親に理解してもらう、子どもが乳房を探索しているサインを母親に伝える、直接授乳時に子どもの良かった点を具体的に母親に伝える、母親が子どもの授乳リズムをつかめるように関わる、子どもの状況や見通しをタイムリーに知れるように関わるの8つのコードで構成された。

《早産児の体格や体力に応じた無理のない直接授乳を見極め支援する》: このサブカテゴリは、母親が早産児の体格に適した安楽な抱き方で授乳できるよう支援する、子どもの哺乳行動を捉え乳房探索のサインに合わせてラッチ・オンを支援する、早産児の体力に合わせて直接授乳の時間を微調整する、母親の面会時は補足をせずに直接授乳だけでよいか見極める、子どもの負担が少なく母乳を飲みやすい乳房の状態に整える、直接授乳場面に立ち会いアセスメントをしたうえで必要な支援を導き出すの6つのコードで構成された。

《母親の習熟度に合わせて母親主体の授乳に移行する》: このサブカテゴリは、直接授乳の初期の段階は近くで見守り支援する、直接授乳に慣れた段階は母子だけで過ごす時間を作りつつ、程々に介入する、母親が主体的に子どもの状況に合わせた授乳を行えるよう支援するの3つのコードで構成された。

【母親が母乳育児の醍醐味を感じられるよう支援する】: このカテゴリは、母親が前向きに母乳育児を楽しめるように、母親の気持ちに寄り添い、意向をふまえて支援することである。

《母親の気持ちに着目し受け止める》: このサブカテゴリは、母親に寄り添い母親の気持ちや悩みを引き出す、母親の気持ちが母乳育児に追いついていない可能性をふまえて関わる、母親がネガティブな言葉を発した場合も前向きにフォローする、母親にありのままを伝えてもらう関係性を築くの4つのコードで構成された。

《母親が母乳育児を楽しめるように関わる》: このサブカテゴリは、NICUに入院した子どもにとっての母乳育児の利点を説明する、母親が落ち込まない言葉を使って対話する、母親の頑張りや認める関わりを行う、母親が前向きに母乳育児に取り組めるように関わる、母親が母乳育児を通じて子育てを楽しめるように関わるの5つのコードで構成された。

《母親の意向を尊重した上で支援する》: このサブカテゴリは、母親の意向をふまえた授乳の方向性を検討し母親が満足できるように支援する、母親・家族が子どもに何をしたいか意思を把握した上で支援する、母乳を与えたい母親の思いに寄り添い思いを受け止めるの3つのコードで構成された。

【母親が母乳分泌を維持していけるよう支援する】: このカテゴリは、母親が母乳分泌の状況に合わせて搾乳を継続し、トラブルなく分泌を維持していけるよう支援することである。

《母親の搾乳状況を確認し母乳分泌をアセスメントする》: このサブカテゴリは、母親が持参した冷凍母乳から搾乳状況を把握する、搾乳量の減少をキャッチし母親の気持ちや搾乳状況を確認するの2つのコードで構成された。

《母乳分泌の状況に合わせた搾乳の計画を母親と共有する》: このサブカテゴリは、乳頭の刺激が早期から必要であることを母親へ説明する、母親と搾乳および分泌促進に向けた生活に関する目標と計画を共有する、母親が無理せず長期に搾乳を継続できるように支援するの3つのコードで構成された。

《母親の乳房トラブルが起きないように支援する》: このサブカテゴリは、母親の乳房に関するセルフケアを確認し助言する、乳房の観察を行い介入が必要か判断するの2つのコードで構成された。

チームで働く上での能力

【母乳育児支援に関わる職種で協働し切れ目のない支援を行う】: このカテゴリは、NICUの母子が母乳育児を行う上で関わる職種で協働し、入院中から退院後まで切れ目なく支援することである。

《小児科医師と協働しながら授乳を支援する》: このサブカテゴリは、小児科医師に子どものサインを伝える、小児科医師と授乳の方針を共有するの2つのコードで構成された。

《助産師と協働し切れ目のない支援を行う》: このサブカテゴリは、乳房の状態や母親の精神面について産科助産師と情報共有を行う、乳汁分泌が減ってきた時は分泌促進に向けて助産師の専門的な力を借りる、乳房トラブルの対応は助産師の専門的な力を借りる、手に余る授乳支援は助産師の専門的な力を借りるの4つのコードで構成された。

《NICUの看護職で切れ目のない支援を行う》: このサブカテゴリは、授乳に関する情報を看護記録に残す、チームで母子の情報共有を行う、カンファレンスで意見交換を行いチームとして母子への支援の方向性を見出す、チームとして方針を統一した関わりを行う、母乳育児を支援する上での困りごとをチームで相談するの5つのコードで構成された。

《NICU退院後も切れ目のない支援を行う》: このサブカテゴリは、子どもがNICU退院後の母乳育児の準備を行う、外来に出向きNICU退院後も継続して支援する、NICU退院後の子どもの体重の推移を把握し授乳の評価を行う、外来スタッフと協働し切れ目のない支援を行う、小児科と協働し切れ目のない支援を行うの5つのコードで構成された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------